

兵衛志殿女房御返事

弘安二年十一月二五日 五八歳

^{ひょうえのさかん}兵衛志殿女房、^{かたうら た}絹片裏給ひ候ひ了んぬ。此の御心は法華經の御宝前に申し上げて候。
まことゝはをぼへ候はねども、此の御房たちの申し候は、御子どもは多し。よにせけん^{世世間}
かつかつとをはすると申し候こそなげかしく候へども、さりともとをぼしめし候へ。恐
々謹言。

十一月廿五日

日 蓮 花 押

兵衛志殿女房御返事